

衝撃の「ラ・カンパネラ」から18年  
再びフランツ・リストの名曲に挑む!!

Ingrid Fuzjko Hemming

# イングリット・フジコ・ヘミング & ブダペスト・フィルハーモニー管弦楽団 指揮 マリオ・コシク

Ingrid Fuzjko Hemming &  
Budapest Philharmonic Orchestra Conducted by Mario Kosik

Program

リスト  
ピアノ協奏曲 第2番

リスト  
ラ・カンパネラ  
ベートーヴェン  
交響曲第3番「英雄」

11/18(土) 15:00(14:30開場)

新潟県民会館 大ホール

S席 ¥12,000

A席 ¥10,000

B席 ¥8,000

C席 ¥6,000

全席指定・税込

プレイガイド

- 新潟県民会館 025-228-4481(発売日10:00~)
- 新潟伊勢丹 ●セブン-イレブン(セブンチケット)
- りゅーとぴあ(窓口・電話・オンライン) 025-224-5521(11:00~19:00/休館日を除く)
- りゅーとぴあオンラインチケット <http://www.ticket.ne.jp/ryutopiaticket/>
- インフォメーションセンターえん(メディアシップ1F) ※NIC 新潟日報販売店でも取り次ぎできます。

お問合せ

- UX新潟テレビ21 Tel:025-222-1117(平日9:30~17:00)
- 新潟県民会館 Tel:025-228-4481

主催

UX新潟テレビ21/コンサート・ドアーズ/(公財)新潟市芸術文化振興財団

共催 新潟日报社

チケット発売日

N-PACmate(友の会)会員発売:6月8日(木)11:00~ 一般発売:6月20日(火)10:00~(りゅーとぴあ11:00~)

※未就学児入場不可。保育ルームを設置しますので、公演の2週間前までに新潟県民会館へお申し込みください(生後6ヶ月~未就学児対象:有料¥200)。  
※車椅子席は新潟県民会館のみ取り扱いとなります。

# フジコ・ヘミング

Ingrid Fuzjko Hemming

スウェーデン人建築家ジョスタ・ゲオルギー・ヘミングと日本人の母とを両親としてベルリンに生まれる。母の指導で幼い頃からピアノを始めた。10歳の時、レオニード・クロイツァーにつき多大な影響を受ける。その時クロイツァーは彼女が将来世界中の人々を魅惑するピアニストになるだろうと予言をしていた。

青山学院・東京芸術大学をへて、NHK毎日コンクール受賞、日本フィルなどなど数多くのオーケストラと競演、来日中のサムソン・フランソワはフジ子のショパンとリストを聴き絶賛。その後、ベルリン国立音楽学校を首席で入学。その後、ウィーンに移り、後見人でもあったパウル・バドゥラ＝スコダに師事。今世紀最大の作曲家、指揮者の一人といわれるブルーノ・マデルナにウィーンで才能を認められ、彼のソリストとして契約したことは彼女が最も誇りとしているところのひとつである。ちなみにこの成約に際しては、彼女の演奏に感銘を受けたレナード・バーンスタインからの支持、援助があった。1968年ドイツの"Die Welt"誌は「ショパンとリストを弾くために生まれてきたピアニスト」、「日本から新しいピアニストが出た」と報じている。そして、フジコ・ヘミングはウィーンでの演奏会直前に聴力を失う。1999年NHKで放映されたETV特集「フジ子～ピアニストの軌跡」は大反響を呼び、再放送の回数を重ねた。デビュー・アルバム”奇跡のキャンペラ”はクラシック界では異例の300万の大ヒットとなる。4回のゴールド・ディスク大賞などは前代未聞である。

現在ロイヤル・フィル、モスクワ・フィル、ハンガリーフィル、イングリッシュ・チェンバー・オーケストラ、ミュンヘン管弦楽団などと国内外で共演を続けている。また彼女は音楽活動のみにとどまらず、米国同時多発テロ後の被災者救済のために年間CDセールス印税全額寄付やアフガニスタン難民のためのチャリティー活動、特に動物愛護へ深い関心をもち、援助を長年つづけている。



## ハプスブルグ家の名門

# ブダペスト・フィルハーモニー管弦楽団

Budapest Philharmonic Orchestra



ブダペスト・フィルハーモニー管弦楽団は「ハンガリー・オペラの父」フェレンツ・エルケルによって1853年に創立。30年後にハンガリー国立歌劇場が完成すると、オペラ公演の際はピットに入り、それ以外の日にコンサートを行うという活動のパターンが出来上がりました。このようにオペラ座管弦楽団の選抜メンバー（全楽団員200人中の120人）が「フィルハーモニー」を名乗って活動しているのは、世界でもこのブダペスト・フィルとウィーン・フィルしかありません。創立以来、リスト、ブラームス、マーラー、バルトーク、コダーイ、R.シュトラウスなどの作曲家が指揮またはソリストとして登場、またニキシュ、ワルター、セル、メンゲルベルク、クレンペラーといった大物指揮者も登壇してきました。中でも、ハンガリー国立歌劇場の芸術監督在任だったマーラーが交響曲第1番「巨人」を自らの指揮で初演していることは特筆されます。戦後はエーリヒ・クライバー、シェルヘン、バーンスタイン、フリッチャイ、フェレンチェクなど、内外の著名な指揮者を次々と迎え、今もその歴史と伝統を守りながら精力的な活動を続けています。